

蒲生干潟の植物⑱

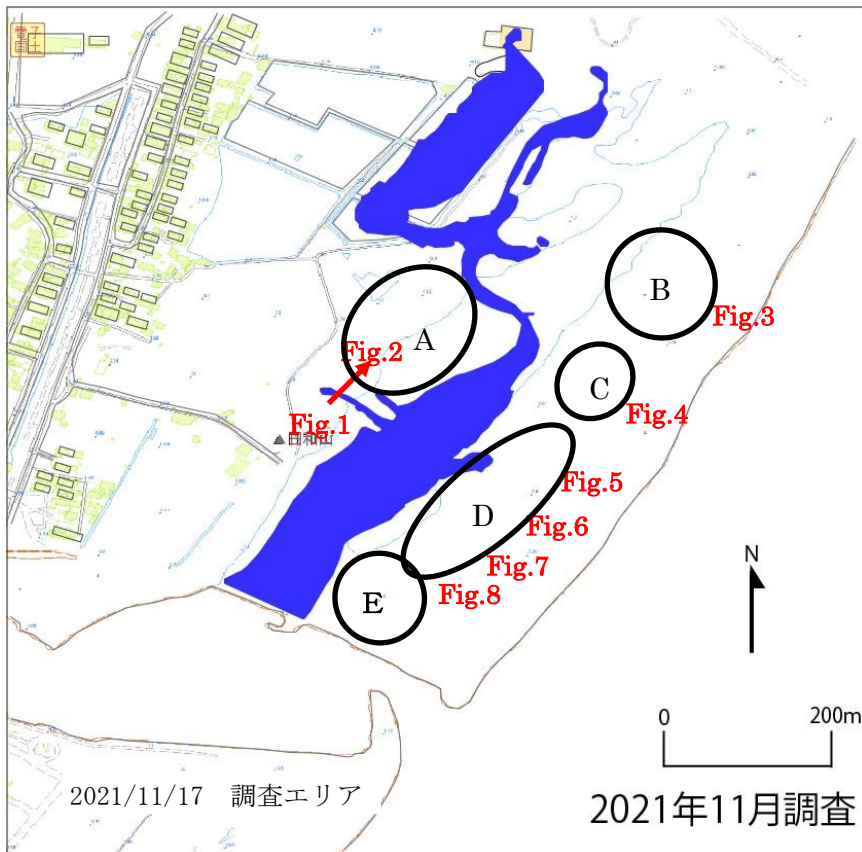


Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアCで撮影



Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアDで撮影



Fig.7 エリアDで撮影



Fig.8 エリアEで撮影

調査日時：2021年11月17日（水）13:30～15:00，天気：晴れ

定点観測では、ハマツナがすっかり茶色になった。背丈は15cm～20cmほどで、夏頃から伸びることはなかった（Fig.1）。また、ヨシの穂にも綿毛が見られるようになった（Fig.2）。エリアBでは、これまで確認できていない植物が茶色くなって群生していた。若いヨシのようにも見えるが定かではない（Fig.3）。エリアC～Dにかけて、群生しているケカモノハシの穂にも白い綿状の毛が見られた（Fig.4）。エリアDの広い範囲に群生するハマエンドウやハマヒルガオはこの時期でも葉が青々としている（Fig.5）。エリアDでは、開花時期が9月頃までと言われているマツヨイグサが数株花を咲かせていた（Fig.6）。エリアDの南側にある2本のマツが順調に大きくなっていった。どちらも背丈は40cmほどである（Fig.7, Fig.8）。エリアEにあるオカヒジキやオニハマダイコンはすっかり枯れていた。これから乾燥が進むと周囲に種子が落ちると思われる。

（宮崎佳彦）